

令和4年9月定例会 一般質問 小西高吉議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。（各議員からの「質問」（問）に該当する部分を黄色マーキングしております。）

「地域活性化について」

○小西高吉 改めまして、おはようございます。

ただいま議長のお許しをいただきましたので、私の一般質問をさせていただきます。

今回は、大項目として2つ、地域活性化についてと中学校の部活動についてということで質問させていただくわけなんです。これは両方とも昨年の一般質問のときにも聞かせていただいて、その後の進捗状況等、いろいろ聞いていきたいと。聞きっ放しで終わるわけにはいけないので、再度聞いていきたいということで、今回質問させていただきます。

その中で、1点目としまして、昨年9月議会一般質問で地域活性化、地方創生の方向性等についての質問に対しまして、交流人口、関係人口の創出は国においても特に地域活性化、地方創生の重要なポイントであると上げられている。どの事業推進に当たってもこの視点を各職員の意識としてしっかりと根づかせ、広げながら着実に進めてまいりたいというようにご答弁いただいております。これにつきまして、どこの課が中心で、どのように着実に進めてこられたのか、その点を1回目としてお聞きいたします。

これで壇上からの1回目の質問を終わります。よろしくお願いたします。

○企画部長 失礼いたします。まず、地域活性化、地方創生について示した計画といたしまして、第2期総合戦略がございます。この計画の進捗管理の取りまとめにつきましては、全庁共有等の旗振り役も含めまして企画政策課にて行っております。各事業の推進につきましては、もちろん各担当所管において責任を持って進めているところでございます。

昨年度につきましては、事務事業評価の様式も改めまして、スタイルも改めまして進捗管理をいたしておるわけでございますけれども、担当課の評価で順調に進捗していると回答したものが全体の7割、進捗が遅れており、改善しながら継続する必要があると評価しておりますのが約3割弱となっております。地域活性化、地方創生の重要なポイントといたしまして、特に交流人口、関係人口の創出が一つの視点として上げられることは、昨年度回答したとおりでございますけれども、その点におきましては、令和3年度は思うようには進んでいないというのが事実でございます。

○小西高吉 いろいろ各課のことも聞いていただいた中で、改善等が30%あるというような

答弁、あまり思うように進んでいないというようなご答弁をいただいたんですが、そのときに着実に進めていきたいといった中でもそういう状態だということですが、2点目として、まずは今ある資源をしっかりと生かし、そのPRを努めていく、これもこういうようにご答弁いただいているんですが、ただ疑問に思うのが、現在まで今ある資源を生かして交流人口拡大等を行っていないように見えるというか、思うんですが、その点はどうなのかというのと、また今ある資源とは具体的に何が当たるのか、この香芝市の資源は何なのかということをご答弁いただけますか。

○企画部長 まず、今ある資源、特に観光資源についてご答弁申し上げます。

まず、本市の観光資源といたしましては、どんづる峯、二上山、この2つが代表的なものであるかというふうに考えてございます。どんづる峯につきましては、県指定の天然記念物でありますし、二上山は香芝のシンボルとしてこれまで住民の皆様からも愛されてきたものでございますし、気軽なハイキングや登山のスポットとして親しんでいただいているというふうに考えてございます。

また、市内には、これ以外にも国指定の史跡、あるいは県指定の文化財、県指定の天然記念物、また市指定の文化財等もございまして、そのほかにも簾尾池や千股池に沈む夕日など、美しい景観や自然が多くございます。こういったものが私どもが考える観光資源であるというふうに考えてございます。

市民の皆様が地域活性につながっているとか交流人口が増えているなどというふうにも実感するに至っていない状況であることは、私どもも痛感しているわけでございますけれども、今後引き続きしっかりと取り組んでいく必要があるというふうに、これも考えているところでございます。

市民の方の中にも、先ほど申しましたような香芝市の観光資源、いわゆる魅力を知らないという方も多くいらっしゃいます。市民の皆様に対する発信も継続して行いまして、シビックプライドの醸成につなげたいというふうに考えているところでございます。

○小西高吉 大きくは、二上山、どんづる峯、二上山は葛城市にも面しているし、大阪府にも面しているということで、皆さんが二上山は自分のところだというお話もある中で、どんづる峯はあくまでも絶対に香芝市だけだというように僕も認識ではさせていただいているんですけど、ちなみにどんづる峯の来訪者数ってどんな状況なんでしょうか。お教えいただけますか。

○産業振興局長（商工観光課長事務取扱） どんづる峯の来訪者数でございます。令和元年から令和3年までのどんづる峯の来訪者数の推計値がございまして、それによりお答えいたします。全て歴年の数値となっております。令和元年 9,400人、令和2年 8,460人、令和3年 5,304人、この3か年の平均で7,721人となっております。

○小西高吉 この3年間においてご報告いただいて、これだんだん減っているけども、コロナ禍の中だということで、それが大きな原因の一つなのかなと思うんですけど、ちなみに来訪者の中で市内、市外、県外、それは把握されてるんでしょうか。

○産業振興局長（商工観光課長事務取扱） 来訪者の方がどちらから来られているかというご質問でございますが、令和元年から3年までの間の来訪者の方、201名の方にアンケート調査をしましてお聞きしたところ、201名の方の内訳でございますが、市内からお見えになっている方が31名、15.4%、県内の他市町村から来られた方が42名、20.9%、奈良県外からお越しの方が126名、62.7%、不明の方は2人で1%となっております。

○小西高吉 県外の方が126名ということで、201名の中で126名、県外の方が多く来ていただいているというのはありがたいことなんですけど、ちなみにこれで香芝市において経済効果ってあるんでしょうかね。その点をお聞かせいただけますかね。

○産業振興局長（商工観光課長事務取扱） 経済効果についてでございますが、どんづる峯付近には来訪者の方が立ち寄りそうな飲食店であったり、カフェであったり、商店であったりというのがそんなに多くあるわけではありませんので、どんづる峯については現在のところ大きな経済効果があるとは考えておりません。

○小西高吉 経済効果としては、ほぼないというように香芝市も判断というか、そういうふうには思っているということなんですけど、基本的に観光資源とうたっている限りは、来ていただくのはもちろんですけど、それにおいて経済効果として何か香芝市にとってメリットがあるようなことを早急に考えるべき、うたってる限りはね。

ただ、それができていないのが今現状だということで、これ資料をちょっと調べたら、「観光資源発掘のための地域調査、奈良県香芝市を対象として」ということで、これは2016年だと思うんですが、麻生憲一名誉教授、現在帝京大学経済学部観光経営学科の名誉教授の方が調査していただいている、その報告書としてあるんですけど、この中で、「今後、香芝市の成長発展を考えていく上では、定住人口の増加だけでなく、市外から多くの人を呼び込み、交流人口、活動人口という形での増加を目指していくことが必要である。我が国では「地方創生」が重要な政策課題とされる中で、香芝市においても地域活性化のための起爆剤となり得るものを見つけ出していくことが必要とされる。」というように書いていただいております。

その中で、最後のほうになるんですけど、「香芝市は、大阪や京都、奈良県内などの近隣地域からの日帰り観光地としての性格が強い。現在、香芝市内の観光入り込み客の動向を把握する香芝市独自の統計資料は存在しない。統計的に把握する場合、奈良県の観光客動態調査に基づくものに限られている。奈良県の観光客動態調査では、香芝市はBエリアとして大和高田市、大和郡山市、葛城市と同じエリアに組み込まれていると。香芝市内への直接の観光入り込み客

数は統計的に把握できていない。香芝市の入り込み客数としては、二上山博物館の入館者数に限られている。香芝市を訪れる来訪者にとって何が魅力的なものであり、より魅力的なものにしていくためには、何が必要なのかエビデンスに基づく分析が今後とも必要とされる。」というように、割と厳しいことを書いていただいております。

ただ、今どんづる峯の来訪者数、これは多分このときはまだされてなくて、新たにそれがプラスされてるのかなと思うんで、この当時のことを書いておられるので、こういう厳しい指摘があるのかなと思うんですけど、こういう形でご指摘もいただいております。

そんな中で、観光資源、今先ほど部長がいろいろ、二上山、どんづる峯等、いろいろおっしゃっていただいているんですけど、それだけでは弱いということで、次の質問として、スポーツ振興と地域活性化を明確につなげて考える取組というのは、今現在行っていないと、去年答弁でおっしゃっていただきました。今後、スポーツを含めた様々なレクリエーション、または音楽や演劇といった文化振興なども含め、地域活性化をつなげる手法についても、香芝市としても検討すべき時期だと考えていると、去年おっしゃっていただいているんですが、地域活性化をつなげる手法について、どのように検討されたのか、お教えいただけますか。

○企画部長 検討の手法といたしまして、例えば検討会議といったような特別な機会を設けることはいたしておりません。スポーツや文化振興の所管はもとより、事業実施の過程で地域活性化の観点を持って創意工夫が加えられていると、今後も加えられていくべきであるというふうに考えております。

さきに申しましたように、この1年はコロナの影響により人的交流が制限されていたということもございまして、誘客、集客のイベントといったようなものが見送らなければならなかったことも多くございまして、思うように地域活性化につながるようなことができていないというのが事実でございます。

ただ、令和4年度より本市の体育施設の指定管理者選定におきまして、市内経済への貢献や体育振興を通じて香芝市への来訪などの提案を視点に入れていただくように選定基準を設けたわけでございますけれども、ミズノグループが指定管理者となりまして、スポーツツーリズムによる市外、県外からの誘客、あるいは障害者スポーツ体験会、交流会の開催、トップアスリートと触れ合える教室の開催などの提案をいただいているところでございます。

今後は、先ほどご指摘のありましたスポーツを通して地域活性化につながっていけばというふうに私どもも希望しているわけでございますけれども、しっかりと提案内容が実現されるように、担当課と共に私どももしっかりと進めてまいりたいというふうに考えております。

○小西高吉 具体的な検討はできていないということですよ。今何とか令和4年度からミズノさんが指定管理者となって、その中でいろんなことを提案いただいていると。今は、先ほど

ありましたようにコロナの中なんで、なかなか実施ができていないのも現状だとは思いますが、これコロナが落ち着いたら一気に動き出すと理解してよろしいですか。

○企画部長 これも提案に具体的にあったというふうに私も記憶いたしております。所管課と共に指定管理者と実現については進捗管理をしっかりしてまいりたいというふうに考えてございます。

○小西高吉 ぜひ、結局コロナが原因だと言ってた、それが言い訳に過ぎなかったっていう現状にならないようにぜひお願いしたいと思うんですけど、ミズノさんはミズノさんでそうやっていろんな形で動いていただくとして。

あと、市内の団体でスポーツや文化などで地域活性化をされている団体はないのか、もしあればその方々の力を貸していただく。市長は、よく市民参加型とかおっしゃって、市民の方々がっていうお話もよく言っているんでね。そういうためにも、貸していただくための組織や地域活性化協議会等の検討委員会を立ち上げられないのかと。団体はあるのか、それとプラス、そういう方々の力を借りて、検討委員会的な、そういうふうな何か協議会を立ち上げることができないのかという点をお聞かせいただけますか。

○企画部長 今議員のほうからございましたように、市内には既存の団体も含めまして、多くの団体がスポーツ活動や文化活動をされているというふうに認識いたしております。その活動の一つ一つが参加者の生きがいでなく、ひいては地域活性化につながっているというところは感じているところでございます。

そういった団体の皆様と協議会を立ち上げないのかという、そういうことができないのかというご提案でございますけれども、協働という意味合いにはいろんなスタイルがあるというふうに考えてございまして、私どもも市民協働というところについては、しっかりとこれ進めていかなければならないカテゴリーであるというふうに考えてございますけれども、一足飛びでこの協議会を設立というようなところには、今はそういう段階にはないのかなというふうには考えてございまして、まずは市民の活動を後押ししながら、実績のある団体の方々と機会を設けて、そういった協働のタイミングを図っていきたいというふうに考えております。

○小西高吉 なかなか市が先頭を切ってというのは、なかなか今の状況では難しいのかなというようには、答弁からも思わせてはいただんですけど、次に質問させていただくのが、それが多分しやすいのかなと思うんですけど、そのときの答弁で、1つの企画を多角的な視点でできることはないか、工夫を凝らしてまいりたいと。多角的な視点で見ると考える、職員さんだけではちょっとしんどいのかなと。市民の方も巻き込んだ組織づくりが必要だと。宇陀市のようなまちづくり協議会などを設置するなど、市民、団体を巻き込んだ市民団体が地域活性化団体をつくると。それを市役所がサポートする体制づくり、これが本来の姿になってくるのかな

と思うんですけど、その点はいかがですか。

○企画部長 まさにおっしゃるとおりでございます。市民団体の方が、有志の方がこのまちをこんなふうやっていこうよというところで市民団体の活動をサポートする、その一つの手だてといたしまして、まちづくり提案活動団体支援事業というのがございます。令和4年度からこの制度の一部を改正いたしまして、スタートアップを応援するというような、より団体活動に活用していただきやすいようになったのではないかなというふうに考えているところでございます。

○小西高吉 それからいくと、市民の方々がそういう地域活性化の団体をつくられた場合には、市役所がサポートいただくというように認識しておいていいんですか。つくったのは、市は関係ありませんって、そんなことはないんですか。それは、内容にもよろうかとは思いますが、その点はいかがですか。

○企画部長 先ほど申しましたように、スタートアップ、初め、今からやっていこうという団体様への後押しとなるような今分野もできてございますので、もちろんルールなり、基準はございますけれども、それに沿ったものでございましたら、しっかりと後押しできるのではないかなというふうに考えてございます。

○小西高吉 これも昨年聞かせていただいた答弁なんですけど、スポーツイベントは大きな人の流れがあり、本市のにぎわいの創出、経済効果が期待できると思う。それを開催する市町は、大変大きなエネルギーが必要だと思っている。本市は、そういったスポーツ大会の誘致や大規模なイベントの企画といった点ではまだまだ未開発の部分。すぐに同様のことはできないまでも、他市の事例をしっかりと勉強していくと。ちなみに他市の事例を勉強していただいたんだろうと思うんですけど、香芝市内の団体で実施している、もしくはできる団体はないのか、その点もお聞かせいただけますか。

○企画部長 私どももこのスポーツイベントに特化して研究をしたというような、しっかりと時間は取れてないわけでございますけれども、様々な他市の、例えば大きなマラソン大会の事例なども含めて、意識して私どもは内容を確認するようにはいたしておりました。

市民団体に限らず、民間事業者も含めまして、市内でスポーツ活動を推進されている団体というのは、様々あるというふうに認識いたしております。しかし、全ての団体を隅々まで把握できているかと申しますと、そうではないということでございまして、また一つ一つの活動内容の詳細までは私どもも把握できておりません。そういった意味で、大規模なスポーツイベントの実施が可能な団体がおられるかということにつきましては、正直分りかねるところでございます。

○小西高吉 他市の事例もしっかりもちろんなんですけど、香芝市内でそういうできる団体が

あるのかどうかというのをしっかり把握していただくというのは、それが多分先だとは思いますが。ただ、このときに答弁ではそのように他市の事例をしっかり勉強していくとおっしゃっていただいたということですので、ただ今までの答弁の中ではなかなかそのときの答弁どおりに来ていないと、していないというのが実情なのかなというようには思っています。

次に、ソフト面での企画やアイデアの創出、利用環境の改善等に取り組む。スポーツ施設に限らず、工夫の積み重ねでにぎわいの創出につながる施設となるよう、しっかり努力していく必要があると考えると、どのようなことを検討されて、どのようなアイデアが出たのか、詳細にお教えいただけますか。

○企画部長 十分な時間は取れていないというのが現状でございますけれども、先ほども申しましたように、体育施設の指定管理者であるミズノグループからはスポーツツーリズムによる市内外からの誘客、また障害者スポーツの体験会や交流会の開催、トップアスリートと触れ合うミズノビクトリークリニックの開催といったような、具体的な提案を計画の中に盛り込んでいただいているところでございます。

また、生涯学習課におきましては、今週の土曜日、今週末でございますけれども、バレーボールのプロチームをお招きして、子供たちの教室を開催するという予定をいたしておりまして、少しずつではございますけれども、こういった動きが先ほど申しましたようなにぎわいの創出につながっていけばというふうに私どもも期待しておりますし、しっかりとこれを進めていかないといけないのではないかとというふうに実感いたしているところでございます。

○小西高吉 今の感じ、もちろん指定管理者としてミズノさんを選ばれたというところは、そういういろんな提案をいただけるからというところはもちろん分かってるんですけど、何かミズノさん任せになってるのかなと思ってしまう。

ちなみに市の職員さんでこんなしたらいいんじゃないとか、そういう案っていうのは、アイデアですよね。案とか、そんなんでどなんですか。出ていないもんなんですか、それとも出しにくい環境なのか、その点をお聞かせいただけますか。

○企画部長 私どもは、特に企画政策などと申しますと、企画立案、政策的なことを進める所管であるということは言うまでもないことでございますけれども、そういった中でアイデアを様々出し合ったりというようなことの機会は、日常の業務の中では行っております。ただ、それを実現していくための余力といいますか、時間的余裕ですとか、そういったことがなかなか取れていない、所管課と調整したりするような時間を取れていないという実態がございますので、そういうことを言い訳にせずに、若手の職員のいろんな意見を実現していくというようなことも私どももしっかり、部長級、課長級は後押ししていかなければならないというふうに考えてございます。

○小西高吉 ぜひ、今おっしゃっていただいたことを、部長、課長、管理職が後押しするという力強い答弁もいただきましたので、若い職員さん方、若い方に限らず、職員さんいろんなアイデアを出していただけたらと思います。これも、職員さんも聞いていただいていると思いますので、その点、ぜひお願いしたいなというように思います。それを管理職が後押しせず、潰していくようでしたら、また私のほうにも職員さん、お教えいただけたらと思いますので、よろしく願いしておきます。

あと、前回の地域活性化の一つになるという思いから、スポーツ公園のことについてご質問させていただいたんですけど、あれから1年になるんですけど、進捗状況、どのような状況でしょうか。お教えいただけますか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 進捗状況でございますが、事業用地取得状況につきましては、全体区域約21.9ヘクタールに対しまして、約13.8ヘクタール、60.2%の取得が完了しております。また、現在優先的に事業を行っておりますプール施設区域につきましては、約2.8ヘクタールに対しまして、約2.3ヘクタール、81.1%の取得が完了しております。

事業費につきましては、約96億円の総事業費に対しまして事業費ベースで約16億円、進捗率といたしましては約17%となっております。

○小西高吉 プールにおいても、土地まだ完全に取得できていないということですけど、ちなみにこれ昨年も聞かせていただいたんですけど、完成時期っていつになるんでしょうかね、スポーツ公園。プールは前回も聞かせていただいているんでいいんですけど、スポーツ公園全体の完成時期ってどのように、市民の方にも聞かれるんで、どのように僕らはお答えさせていただいたらいいのかと。昨年は、勝手に10年以上はかかるのかなというように認識してるということで私は申し上げましたけど、実際どうなのかなというところ、はっきりしたことって言えないんですかね。その点、お聞かせいただけますか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 現在、社会資本整備交付金の配分率がかなり低い状況が続いてますんで、なかなか完成時期については、お答えするのは現状では難しいのかなとは考えております。ただ、一日でも早い完成を目指して鋭意努力したいというふうに考えております。

○小西高吉 国のお金を頼りにしないと、単独ではなかなかできないんでね。市単独っちゅうわけにはいかないんで、その点は分かるんですけど、大分厳しいのかなと。そんな中で、少しでも進めようと思ったらお金ですよ。お金が必要だということで、スポーツ公園構想の変更等、そういうのは検討されないのかと。全国的に見れば、広域スポーツ公園、例えば長野県松本市や広島市に立派なスポーツ公園があります。奈良県には広域スポーツ公園っていうのはないですよ、馬見丘陵公園っていうのはありますけど。奈良県と一緒に奈良県広域スポーツ公

園、そういうのを提案することはできないのかと。それが一番今の、苦しい補助金、助成金等の中で、財政的にしんどい中で一番ニーズに合っているのかなと思うんですけど、その点はいかがですか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 令和 13 年に奈良県で国体開催が予定されているということで、今社会資本整備交付金の配分率が厳しい現状で、国体利用も踏まえ、以前から県に打診を行った経緯がございます。今後も改めて県に相談させていただきたいというふうに考えております。

○小西高吉 そのとき打診されて、反応的にはどうだったんですかね。いや、オーケーやったら、それはそれで進んでるんだらうと思うから、そのとき断られてるのかなとは思いますが、少しでも可能性っていうか、実現できる余地はあるように感じておられるのか、その点、分かるようでしたらお聞かせいただけますか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 以前、相談に行ったときには、なかなか難しいのではないかなというような雰囲気であったというふうに聞いております。

○小西高吉 ぜひ奈良県にご協力いただきたいと。つくって終わりじゃないですよ、あとそれを管理していかないといけないと、いろんな面でまだまだお金がずっと、費用がかかってくるという中で、ぜひ市長を含め、ぜひお願いしたいなというように思います。

次に、これも答弁ですけど、全ての事業において行政と市民、地域団体、事業者などの皆様と協働で取り組むことは大変重要であると考えます。それぞれがお互いにできること、できないことをしっかり認め合い、活躍できる場、得意とする分野、持っているノウハウ、技術があるか、それぞれの特徴を生かしながら適切な役割分担を行って、参画を呼び掛け合いながら、まちづくりを進めていきたいというように答弁いただいております。その後、市民や地域団体、事業者などの皆様と協働で取り組むためにどうすればよいかと検討されたのかと。香芝市は、市民との協働が苦手分野なのではないかとの市民のお声もでございます。どうですか、いかがですか。

○企画部長 苦手分野というご指摘もいただいているわけでございますけども、昨年執り行いました 30 周年の記念事業につきましても、これは実行委員会方式を取りまして、民間の方々と共に進めさせていただいたという経緯もでございます。協働の手法といいますのは、事業分野や事業内容、また対象者によりまして様々でございます。各所管において事業実施の過程で行政と、そして市民や地域団体、事業者さんなどの民間の方々と協働で取り組むという観点を持って、これ創意工夫を加えていくべきものであるというふうに考えております。

これまでも協働の視点がなかったわけではございませんけども、香芝市は協働が苦手なんじゃないかというような市民の方がおられるといったようなことがお一人でも少なくなるように、

真摯に受け止めて、私どもも協働の様々な在り方について研究してまいりたいというふうにご考えてございます。

○小西高吉 ぜひお願いしたいです。

次に、大阪万博に向けて特別な企画があるわけではないが、今後この機会をどう生かしていくかをしっかり検討してまいりたいと、これもご答弁いただいています。どのように検討されたのか、お教えいただけますか。

○企画部長 大きなイベントでございます大阪万博でございますけれども、5月10日付で2025年日本国際博覧会と共に地域の未来社会を創造する首長連合の賛助会員として今申込みをさせていただきまして、事務局が開催する総会ですとかオンラインセミナー等に参加して、今情報収集をしているというような状況でございます。

○小西高吉 大阪万博もチャンスだと思います。このチャンスを生かさなければならぬときだと思います。

ある方がおっしゃってました、「努力は一生、チャンスは一瞬」と。それを肝に銘じて進めさせていただきたいと。せっかくそういうチャンスを目の前に与えていただいているのに生かせないということではもったいないですよ。ぜひお願いしたいと思います。

次に、中項目(2)として、スポーツコミッション等の設置の考えはということで、スポーツコミッション等の設置に関しては、その後、どのように検討されたのか、詳細にお教えいただきたいというところで、これスポーツコミッションとは、スポーツを通じた地域振興を目指す組織と。スポーツ大会やイベント、合宿等の誘致、スポーツを通じた交流促進等による地域活性化と市外からの誘客を目指す官民一体型の専門組織。地域におけるスポーツ振興、スポーツツーリズム推進のために、地方公共団体、民間企業、これはスポーツ産業、観光産業など、各種団体等が連携・協働して取り組む、そういう組織を言うということで、スポーツコミッションの役割としては、スポーツ大会や合宿などの誘致や運営の支援、利用者ニーズに対応するワンストップ窓口機能、情報発信やPR活動などということで、その成果というか、スポーツを通じた地域の活性化によって、交流人口の拡大、地域経済の波及効果、地域の知名度向上、地域住民のスポーツ活動の活性化等、いろんなメリットがあるというように、この資料でも書いておられます。

いろんなところで、市レベルでいきますと、さいたま市、松本市、いろんなところ、市でもスポーツコミッションというのを設立されて動いておられるというようにも書いてるといふか、資料としてネットで調べてきたんですけど、その点、どのように検討されたのか、詳細にお教えいただけますか。

○企画部長 スポーツ庁が地域のスポーツコミッションに描く姿ということで、先ほど来、議

員がおっしゃっていただいたような様々な取組やその効果というようなものが上げられているわけでございますけれども、今ご紹介がありましたような大規模な地域スポーツコミッションの設立というものの取組を推進するのは、コミッションを設立するというのは一つの手法であるというふうに私どももしっかりと認識しているわけでございますけれども、本市で活動する個人や団体の活動の実情から申しますと、なかなか直ちにスポーツコミッションにつながるというようなところでは今現時点ではないのかなというふうには思っているところでございます。

まずは、個人や団体の活動をしっかりと活性化させていく、後押しさせていただくというようなところではないかなと思っております。1つの手段といたしまして着手いたしましたのがまちづくり提案活動支援事業の制度改正でございましたり、体育施設の指定管理者の選定の際に地域住民との連携、協働の視点、あるいは市外からも訪れる魅力ある施設とすることなどを募集要項に盛り込ませていただいて、そういった団体の発掘を私どもとしては今進めているというような、そういった状況でございます。

○小西高吉 市がされている市民提案型の事業、それを拡大できるような、今状況としてはどうなんですか、実際にそういうふうな形で拡大して、市全体の事業というか、そういうイベントになったとか、そういう事例ってあるんですか。

○企画部長 制度改正は、今年度からということでございます、ただスタートアップで手を上げてきてくださっている事業者さんが数ございましたので、こういったところが定着して、好評でございましたら、これが後には、例えば事業化されるといったようなことも可能性の一つとして考えられますので、まずはそういったやってみようという機運を高めるところで申しますと、今年が元年であるというふうに考えているところでございます。

○小西高吉 スタートラインだと、今始まったところだということだということですので、これからしっかり検証もしていきたいというように思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

今までのご答弁、市長も聞いていただいたように、なかなか進んでいないと。地域活性化、昨年私が質問した答弁での内容を再度確認したら、なかなか進んでいないというのが現状です。

今スポーツコミッションのこともお話しさせていただいたんですが、なかなか市では難しいのではないのかなと。いろんな事業を進める地域活性化、地方創生、いろんなところの分野において、市だけでは、市の職員さんだけではなかなかしんどい、ほかの事業もいっぱいありますので、その中でいきますと、スポーツコミッションの設立、そういった組織の設立は、市長、いかがですか。市長のお考えをお聞かせいただけますか。

○市長 いろいろなお話、関係人口の関係のお話から入っていったかなと思います。

まず、どんづる峯のお話からさせていただくと、テレビで紹介されたり、ユーチューバーの方が10万レビューとかというふうな形で再生はされてますが、小西議員おっしゃるように経

済効果自体というのは低いのかなというふうに考えております。

その中で、以前からスポーツツーリズムということでご提案をいただいております。その中の一つとして、スポーツコミッションはどうだという話もいただいたかと思えます。私なりにも少し調べさせていただいて、成功事例とかを見させていただくと、その中ではサッカーであったり、ラグビーであったり、バレーボールであったりという、そういう合宿の誘致であったりとか、あとは国際大会ですね、障害の方の国際大会、車椅子マラソンであったりとか。あとさらに、もうちょっと大きなもので言うと、しまなみ海道、あれがサイクリングのメッカとっていった一つのきっかけとしても国際大会があって、そこからいいよねっていうふうに広がっていったっていうのがあるようでございます。また、そういった資源、大きなものだけでなく、その土地、土地の資源を使ったものですね。群馬なんかでは、キャニオニングっていうんですか、何か川下りをするような、そういったところからもやってるようです。

ただ、今の香芝市の現状を見ると、そういった施設、目玉になるようなもの、これが弱いと。どんづる峯を使っていくというよりも、スポーツには弱いと、こういうふうなことになるのかなというふうに思いました。

その中で一つ、新潟のほうでは体育館とか、そういう施設、もともとある施設を地域交流の場としてたくさんのイベントを開くことによって人を呼び込むというふうなことをしてるところはございました。

香芝市においては、今すぐある施設でいえば、体育館があるわけでございますが、体育館での、先ほど福森から話させていただいているように、ミズノさんと協力したほうでイベントというのも一つの方法だと思います。あったのは、ワールドマスターズがもともとあったんですけども、コロナで延期になってるというのが現状でございます。

そして、まちづくり提案事業っていうのから、そのスタートアップから提案型、そしてこちらからの提案っていう、こういうふうな段階が一番理想的なのかなというふうには思います。

そして、一番方法として小西議員もおっしゃるように、行政が主体となるとどうしても弱いんじゃないかというふうなことがございますので、30周年でやってたり、冬彩なんかが一番分かりやすいかなと思うんですが、実行委員会形式、そういったものであれば、行政と民間、やる気持ちのある人たちというのが一緒になってできていくのかなと。その後にそういうスポーツコミッションというふうな何か一つの旗印ができてつながっていくのかなというふうに感じております。

○小西高吉 市長は、前向きに考えていただくというか、必要だけでもすぐにはスポーツコミッションという形はやりにくいと。取りあえず実行委員会的な協議会的な形からそこへ結びつけばという答弁だというように認識していいんですね。ぜひ実現に向けてお願いしたいと

思います。

先ほども言いましたように、どんづる峯、二上山、もちろん香芝市にとっても大事な観光名所でございますが、それだけでは弱いと。ほかのイベント等を打つにもスポーツがいいんじゃないかということで、そんなことでも提案させていただいております。

今おっしゃっていただいたように、香芝市にそういうイベント、大会を開こうにもそういう施設が少ないということで、次に中項目の(3)番目として、グラウンド等の人工芝生化の考えということで、ぜひお聞かせいただきたいんですけど、将来できるスポーツ公園のグラウンド等の人工芝生化の考えは、人工芝にするというお話も聞かせていただいたりはしてるんですが、お教えいただけますか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） スポーツ公園の基本設計では、多目的競技場の仕上げについては、整備費用、維持管理費等の費用を検討した中で、現在の基本設計では人工芝を予定しております。また、最終の仕様につきましては、事業を進める中で財政状況等を考慮し、また皆様の意見を参考にしながら進めてまいりたいというふうに考えております。

○小西高吉 人工芝にさせていただけるということですけど、先ほどスポーツ公園についての質問に対しても交付金が、配分率が低くなっていると、厳しい中やということですけど、人工芝にするためにほかに財源があるように聞かせていただいて、その点、お聞かせいただけます。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 他の財源として、スポーツ振興くじ助成金が考えられます。グラウンドの芝生化事業として、助成対象費用上限 6,000 万円の 5 分の 4 の 4,800 万円の助成が可能となっております。こちらの助成金については、交付金の併用の可否も含めて今後検討してまいりたいというふうに考えております。

○小西高吉 ぜひ財源確保をお願いしたいと思います。

次に、**現在ある香芝市内のグラウンド等の人工芝に対しての考えをお聞かせいただけます。**これ僕が調べたら、サッカーグラウンド 5,000 平米以上の面積で考えると、1 平米 7,000 円ぐらいの、最低でも、そういう芝生、人工芝を使ったほうがいいんじゃないかというふうにネットで上がってて、それ単純に計算すると 3,500 万円以上ということもあるんですけど、その中でも助成金もございますけども、その中で香芝市内のグラウンド、先ほど市長が今そういうふうなサッカー大会を開こうにもそういう整備されたグラウンドがないと、施設がないとおっしゃっていたんですけども、その点をお聞かせいただけますか。

○教育部次長（生涯学習課長事務取扱） **人工芝生化にすることによりまして、グラウンドの草刈りや整備など日頃の維持管理に関しましては、コストの削減が図れると思いますし、一部の競技では、先ほどおっしゃいましたように、サッカーとかは利用環境の向上につながるというふうなメリットも考えられます。**

しかしながら、現行のグラウンドに関しましては、グラウンドでしかできない競技もございますので、そういった部分につきましては、競技の利用者につきましてはデメリットになるということも考えられます。

また、今のグラウンドに関しましては、芝生とグラウンドを両面使い分けができるような面積があるような施設はございませんので、現行のところは難しいと考えております。

○小西高吉 土のグラウンドしかできない競技というのは、僕ももう一つ分からない部分があるんですけど、例えば県民グラウンドを人工芝にできないのかと。何で県民グラウンドなのかというと、JR志都美駅から徒歩5分ぐらいかなと。西名阪香芝インターから車で約5分ぐらい、混んでも5分ぐらいかなと思うんですけど、立地的にも大会を開催しても市外から来られる方にとっては便利なのかなと。ただ、駐車場のところは危惧するところはあるんですけど、それは今後としても、その点、いかがです、県民グラウンド、どうですか。

○教育部次長（生涯学習課長事務取扱） 先ほども申しましたように、全面を芝生化することによりまして、そちらでグラウンドとしてソフトボールであつたりとかつていうのができなくなるというようなことは危惧されるようなところがあると考えております。

○小西高吉 今県民グラウンド、野球ができないグラウンドになっています。それは、何でかいうたら、近所の方に大概いろんな形で迷惑をかけたというのが発端で野球ができなくなったと。唯一ボールというか、できるのがサッカー、ソフトボールと。今おっしゃってるのは、ソフトボールのマウンド、ソフトボールのピッチャーマウンドが必要やからという話なんですけど、移動式マウンドっていうのが実際あるんですわ。移動できる組立て式のマウンド、ピッチャーが実際に投げるところが土になっているというのも、これネットで出てきたんでね。そんなんもいろいろ研究いただきたいと思うんです。できない理由を探すよりできることを探していただけたらなというように思いますので、よろしく願いしておきます。

次に、高山台グラウンド、これ前回議長が質問された中でも小中一貫校をその場所できとこというお話も実際ございましたが、今どういうふうになっていくんでしょうか。高山台に実際に学校ができるような形になるのか、それを含めた中で、そこに建つということは、一つのグラウンドがなくなってしまうと。高山台グラウンドを利用されてる団体の方も多いようでございますので、その点、そのときに代わるグラウンドを整備する、確実にそれは必要だと思うんですけど、その考えも踏まえた中でお聞かせいただけますか。

○教育部次長（生涯学習課長事務取扱） 学校の統一化というか、今学校編成については現在検討中でございますので、高山台グラウンドに移設するという話は、まだ今後の検討材料になっております。現行あるグラウンドとしては、まだまだ活用していきたいと考えておりますし、もし仮にそういった事例があった場合は、ほかの施設、グラウンドを設定するということも考

えていく必要がございますので、総合的な観点から検討はしていきたいと考えております。

○小西高吉 ぜひお願いしたいと思います。グラウンドがただでさえ、香芝市は施設が少ないと言われてる中で、また減ってしまうということのないようにね。そこを子供たちのために利用すると言えば、違う形で代替えの場所を造ってもらいたいと。それは、強くお願いしておきます。

「中学校の部活動について」

○小西高吉 大項目2として、中学校の部活動。

これも昨年6月議会で質問させていただいて、1年以上経過しているんですが、進捗状況です。1つ目として、地域部活動の導入に対して、改めて中学校の関係者から意見を集め、検討していくというご答弁をいただいているんですけど、検討内容をお聞かせいただけますか。

○教育部次長 現在のところですが、国の状況等を注視しながら県教委や県内の市教委、さらに中体連、中学校の校長、教職員などから意見を継続しながら集めておるところでございます。意見を収集しながら検討してきたことにつきましては、地域移行に関わっての受皿となるスポーツ団体でありましたり、教職員の兼職、兼業の在り方、大会の在り方、それから保護者の受益者負担の在り方、こういったところについて現状を聞いておるところでございます。

○小西高吉 今までの部活動の地域移行についての流れを改めてご紹介していくと、運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインが平成30年3月に出された。平成31年には、新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革、これはあくまでも職員さんの働き方改革のための部活動改革といったところになるんですけど、そして令和元年には公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法の一部を改正する法律案に対する附帯決議ということで部活動のことがうたわれております。

そして、令和2年には学校の働き方改革を踏まえた部活動改革についてということで、令和5年以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しないこととするというように、今までの経緯、取組についてご報告されております、これはスポーツ庁のほうから出てるんですけど。

その中で、次に現場の先生方の声を聞く必要があり、とりわけ運動部活動の各競技の状況等について聞き取りもしながら働き方改革も交えて状況等について把握、検討していくというようにご答弁をいただいていたんですが、それで先生方の声、検討はどのようにされたのか、お聞かせいただけますか。

○教育部次長 昨年の6月議会以降ですが、8月から9月の辺りで市内の中学校の教員に対し

まして、部活動の意識調査のほうを実施いたしました。その中の一つに土日祝日等は、地域部活動に任せたいという質問に対しまして、非常に思う、そう思うと回答した教員については45.5%、あまり思わない、思わないと回答した教員は合わせて54.5%というような状況になっております。

また、部活動の顧問に対しまして直接意見を聞く、まだ今聴取しているところなんですが、聞いておる中で、地域部活動の移行の是非でありましたり、もしくは教員が部活動に関わることの是非、また市内の各競技の状況、こんなところについて意見を聞いておる状況でございます。

○小西高吉 どちらかというところと反対というか、推進に向けては思わない方のほうが少し多いと。そういう方々は兼業というのが認められるということですので、ぜひそのまま部活動にご協力いただけるような体制づくり、もちろんそのときには給与というか、報酬も発生してくると思うんで、いろんな課題はあろうかと思うんですけど、ぜひそっちの方向にも進めていただきたいということ。

次に今後は国や県の情報を集めて、学校現場に示した上で課題と導入のための必要な要件を整理していくということでおっしゃっていただいていたんですが、整理はできましたでしょうか。

○教育部次長 地域部活動の移行については、改革の方向性や課題への対応、こういったまとめが今年の6月に国の運動部活動の地域移行に関する検討会議というところから提言として示されたところございまして、随時いろんな情報が出ておる状況でございます。この提言を受けまして、7月に県教委から市町村教委のほうに概要説明がございました。この中で意見交換等が行われているわけでございますが、その課題解決に関しましては、なかなか市町村単位では困難なものも多く、県教委への意見等も出されておる状況でございます。そのような状況でございますので、要件の整理というものは、現状今も続いているというのが事実でございます。

○小西高吉 いろいろ課題もあって、この7月に県のほうから、6月に多分国が出されたものに対しての県の報告だったと思うんですけど、次に現在研究がされ、地域の人材の活用や保護者の費用負担などいろんな課題に取り組むため実践研究されている、今後示された研究成果を見ながら在り方について慎重かつ速やかに検証を進めていくということで、進捗状況、この点をお聞かせいただけますか。

○教育部次長 先ほどの答弁と少し重なりますが、国からの提言や先行研究の成果を受けまして、市町村単位だけでは速やかに進められないことが市町村教委のほうからも意見が出ております。一例といたしましては、受益者負担に伴います困窮する家庭への部活動に係る費用、これに対する国による支援の方策、こういった検討等がございます。また、全国大会の開催回数 of 精選でありましたり、指導者の大会参加資格、こういったものについて統一した体制整備が

必要だというふうなことで上げられたところでございます。

また、今後も国の動向を注視しながら、また県教委や県内市町村、市町村教委と連携を図りながら慎重に進めてまいりたいと思っております。

○小西高吉 そうですね。いろんな提言を出されているようですね。その中で、保護者の費用負担ということで、受益者負担だというお話も実際あるんですけど、これには困窮された方に対しては市のほうで考えてくれというような提言もあるようなんですけど、私の考えとしては今までどおり部活動、基本的に要らないですよ。どっか行くときとかは、そんなんは別としても、基本的には部活動をされるに当たって会費を払ってるとするのは、年間1,000円とか2,000円とか、そんなんはあるとしても、その姿を維持してもらいたい。子供たちに負担を強いるような形で、そのお金がかかるから辞めるとかやらんとくとかというような、それが原因でのやらん、するしないというようになるのは、本来の姿ではないと思うんで、市のほうはしっかりそこは考えていただきたいと思うんですが、6月議会で提案、可決された補正予算、地域部活動推進事業、これはあくまでモデル事業というか、実践、研究のための事業だと思うんですけど、この入札が2回にわたって、これは不落になった、結局入札が落ちなかったというように聞くんですが、その状況をお教えいただけます。

○教育部次長 現在、不落となりました2回目の入札について、再度入札を進めているところでございます。

○小西高吉 これ地域運動部活動推進事業ということで国のほうが出されて、実際行っていたいて、問題点、課題点とかもそっから見いだしていただいて今後の進め方につなげていくというようなことで、これ国が全額負担ですよ。これ全額負担だと思うんですけど、そっから入札方法に問題はないのかなと。他市の状況も踏まえた中でお教えいただけますか。

○教育部次長 今回の研究は、入札方法も含めて今後同様のケースによって地域移行を進められるか等も検証する場と考えております。今回の入札仕様書につきましては、他市が同じ事業に参加した際の先事例を検討いたしまして作成したものでございます。大きい問題はなかったかなと考えております。再度入札になったことについては、精査をする必要があると考えております。

なお、他市での入札方法につきましては、一般競争入札のほかに企画競争入札の例がございます。

○小西高吉 私も入札方法、他市というか、他府県のこともいろいろ調べさせていただきましたけど、競争入札よりも企画入札、プロポーザルのほうが多いですよ。多分僕が調べた中で言うと、8割方そうなのかなというように、調べた中で思ったんですけど、そっからいくと実際にこれ遅れてますよね。8月から始めるようなことを多分そのようにお聞かせいただいた

と思うんです、実際にね、この推進事業を。その中で、実際にできてない、できないですよ、これ入札が不落になってるところからいくとね。これ本来の、もちろん入札方法も含めた中で研究するためにおっしゃっていただいているんですけど、これ本来の目的、国が出されてる推進事業からいくと、地域において実践研究を実施し、研究成果を普及することで休日の地域部活動の全国展開につなげる、これつなげるために国がお金を出して実際にやってくださいねということだと思うんですけども、その認識は僕が間違ってるんですかね。あくまでも入札方法からのそういう研究、研究になるんですかね、成果も含めてするようになっていうようなこともこれ含んでいるんですか、国の地域運動部活動推進事業。その点、いかがですか。

○教育部次長 国の委託の要領につきましては、そこは示されていないわけではございますが、この事業を通しまして、こちらとしましてはそういった点も検証のほうをしたいというふうに考えております。

○小西高吉 1点気になるのが、これはそういう形ですと。これ東中ですよ、これ。その先生、指導者、もちろん学校長なり、子供たちにはそういう形でいつからこういう形になりますよっていうお知らせはしてなかったんですか。もしいつからしてるって言うてらしたら、遅れてますよね。混乱を招くような形になってますよね。その点は、いかがですか。

○教育部次長 こういった状況については、迷惑をかけておるところではございますが、子供たちの指導につきましては、切れ目なく、これまでどおり現在の顧問が指導していただいておりますので、活動自体に支障が出ておる状況ではございません。また、今後地域移行を進めるに当たっては、競技団体の状況によって難航するようなケースも予想されます。いずれの場合も子供たちの活動にできるだけ支障がないよう、今回の研究を検証しながら準備を進めていくことが大切であるというふうに考えております。

○小西高吉 ぜひ子供たちに混乱を招く、そして迷惑のかからない、今は引き続いて顧問の先生が指導いただいているんで、それはそれでいいんですけどね。ただ、こういうふうにやりますって言うていたにもかかわらずできない。その原因が入札方法、入札方法に問題があったのかは別としても、入札される場所、落とされる場所がなかったというところが原因でそれが実施できていない。

ちなみにこれ地域部活動の国から下りるお金、これが削減されることとかはないんですか、遅れることによって。その点はいかがですか。

○教育部次長 その点はございません。

○小西高吉 減額されないというので、本来は減額されるのが本来の姿なのかなと思うたりはするんですよ。スタートするのが遅れてるのに、結局満額いただけるんだから、市にとってはいいとは思いますが、そこら辺も考えた中で減額はないんでその点はいいですけど、子供

たちに迷惑がかからないような状況にさせていただきたいというように思いますので、その点、お願いしたいなというように思います。

あと、運動部活動の地域移行に関する検討会議、先ほどおっしゃっていただいて、触れてもいただいてたんですけど、令和4年6月に提言されてるんですよね、検討会が。そんな中で、実際、これまずは休日の運動部活動から段階的に、段階的に地域移行というようにしていくのを基本とすると。目標時期は、令和5年度の開始から、もう来年度ですよ、3年後の令和7年度末をめど、この間に実施、実現していくようにしてくださいという理解で間違いないんですか。令和7年度には確実にしなさいという意味ではなく、この3年間の間に段階的に進めていってくださいねという理解で間違いないんですか。

○教育部次長 段階的にという考えで間違いございません。

○小西高吉 ただ、なかなか課題が多いです。多いと思うし、大きなことだと思うんです。働き方改革での部活動改革だと言ってますけど、本当に部活動改革がメインになっているような状況だと僕は認識してるんですけど、その中で本当に教育委員会だけで進めるのにも大分厳しいんじゃないかなっていう、私は思うんです。そっからいっても、さっき申しましたようなスポーツコミッションの設立もここに大きく寄与するんじゃないのかなと。

ここにも書いてるんですけど、地域のスポーツ団体と学校との連携・協働の推進と。地域のスポーツ団体等のいろんな情報を得るべきだと思うんで、それも含めた中でそういう担当課というか、中心になる、今はもちろん教育委員会だと思うんですけども、それを手助けするような協議会、地域団体を含んだ中でそういう組織も必要だと思うんですけど、その点、これ教育のところですので、教育長、その点、お考えをお聞かせいただけますか。

○教育長 失礼いたします。議員おっしゃるように、地域全体をスポーツで活性化させる活動を行うスポーツコミッションの導入の理念は魅力的であります。ただ、地域部活動の導入期である前段階において、時期尚早と考えております。

○小西高吉 時期が早いと。

ただ、教育委員会の部活動を助けるためにも、そういう組織があつたらいいんじゃないかと提案させていただいているんで、ただ時期を今しないと間に合わないですよ、これ。来年度からもこれ段階的に進めていって、そら3年間という猶予はあるけど、3年間なんてあつという間ですよ。言い出しからもう2年、3年になってるんですよ。そういう提案をさせていただいているんで、その点も今は時期は早いとおっしゃっていただけてますけど、今じゃないと僕はあかんと思っておりますんで、その点、提案して終わらせていただきます。ありがとうございました。